

平成13年度 第2次試験 【事例】

AAS解答例

第1問 (配点40点)

(設問1)

	(a)	(b)	(c)	(d)
1 利益率	売上高対経常利益率	経常利益 ÷ 売上高 × 100	3.2%	2.3%
	売上高対総利益率	売上総利益 ÷ 売上高 × 100	20.2%	18.2%
2 回転率	総資本回転率	売上高 ÷ 総資本	1.86回	1.50回
	売上債権回転率	売上高 ÷ 売上債権	3.75回	2.36回
3 安全性	自己資本比率	自己資本 ÷ 総資本 × 100	17.5%	13.8%
	流動比率	流動資産 ÷ 流動負債 × 100	110.8%	110.5%

(設問2)

売上高は増加しているが、原価率のアップにより収益性の低下がみられる。また、売上債権の増加が、総資産回転率の低下を招き資産効率を悪化させている。結果、負債依存体質が進み、財務安定性を低下させている。

第2問 (配点30点)

(設問1)

A 営業活動キャッシュフロー

(a) 項目	(b) 金額
税引前当期利益	+200
減価償却費	+5
営業外収益	-49
営業外費用	+216
特別利益	-26
売上債権の増加額	-1,496
商品の増加額	-120
仕入債務の増加額	+48
小計	-1,222
営業外損益	-167
特別利益	+26
法人税の支払額	-100
合計	-1,463

B 投資活動キャッシュフロー

(a) 項目	(b) 金額
投資有価証券の取得による支出	-12
その他固定資産取得による支出	-33
合計	-45

C 財務活動キャッシュフロー

(a) 項目	(b) 金額
短期借入金の増加	+1,405
長期借入金の増加	+83
合計	+1488

(設問2)

前	期	と	比	較	し	て	、	キ	ャ	ッ	シ	ュ	フ	ロ	ー	は	減	少	し
て	い	る	。	理	由	は	、	売	上	債	権	の	増	加	が	影	響	し	て
営	業	活	動	に	よ	る	キ	ャ	ッ	シ	ュ	ア	ウ	ト	お	よ	び	投	資
活	動	に	よ	る	キ	ャ	ッ	シ	ュ	ア	ウ	ト	を	財	務	活	動	に	よ
る	キ	ャ	ッ	シ	ュ	イ	ン	で	補	え	な	か	っ	た	め	で	あ	る	。

第3問(配点20点)

(設問1)

(a)	売	上	高	構	成	比	と	限	界	利	益	率	を	算	出	・	比	較	検	討
	す	る	こ	と	に	よ	り	、	利	益	最	大	と	な	る	商	品	構	成	と
	な	っ	て	い	る	か	ど	う	か	を	分	析	す	る	べ	き	で	あ	る	。

(b)	売	上	高	構	成	比	と	限	界	利	益	率	か	ら	、	メ	ガ	ネ	ガ	ラ
	ス	の	貢	献	利	益	が	高	く	半	導	体	用	研	磨	剤	が	低	い	。

(設問2)

経	営	戦	略	と	の	整	合	性	や	経	営	の	内	部	体	質	を	強	化
す	る	視	点	で	、	売	上	高	構	成	比	と	限	界	利	益	率	の	デ
ー	タ	か	ら	セ	ラ	ミ	ツ	ク	用	研	磨	剤	よ	り	も	、	光	学	機
械	レ	ン	ズ	用	ガ	ラ	ス	と	メ	ガ	ネ	用	研	磨	剤	を	重	点	と
し	た	プ	ロ	ダ	ク	ト	ミ	ツ	ク	ス	を	検	討	し	て	い	く	。	

第4問(配点10点)

(a)	コ	ス	ト	負	担	が	少	な	く	、	ベ	ス	ト	プ	ラ	ク	テ	ィ	ス	を
	追	求	で	き	る	E	R	P	の	導	入	を	検	討	し	て	い	く	。	

(b)	導	入	目	的	を	明	確	化	し	、	D	社	の	業	態	に	マ	ツ	チ	し
	た	シ	ス	テ	ム	の	検	討	と	I	T	投	資	コ	ス	ト	に	つ	い	て
	の	正	確	な	見	積	り	を	行	い	費	用	対	効	果	に	留	意	す	る